

魅力ある快適空間

アーバンスクエアを創るアリサカ

会社説明会資料

平成19年3月期

H19年(2007年)6月



株式会社アリサカ

<http://www.arisaka.net/home.html>

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測しえないような特別事情の発生または通常予測しえないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しにのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

コンテンツ

独立系アミューズメント施設の運営会社として
九州から、そして全国へ

コンテンツ・・・・・・・・・・・・・・・・ P2

[会社概要]

会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

事業の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・ P5

[事業内容]

H19年3月までの状況・・・・・・・・ P7

年度別ゲーム市場の規模と店舗数 P8

業界順位（アミューズメント施設） P9

出店戦略・・・・・・・・・・・・・・・・ P10

事業別店舗数推移と見込み P11

店舗の状況（平成19年3月現在） P12

H20年3月期 業績予想 P13

今後の業績予想・・・・・・・・ P14

積極的な利益還元・・・・・・・・ P15

[決算概要]

貸借対照表・・・・・・・・ P17

損益計算書・・・・・・・・ P18

キャッシュフロー計算書 P19

事業別売上高予実比較 P20

H19年4月 月次売上状況 P21

有利子負債の推移見込み P22

設備投資、減価償却費の推移 P23



会社概要



会社概要

会社名	株式会社アリサカ 代表取締役 社長 有坂 順三
設立	昭和51年10月9日
資本金	922,650千円
発行済株式数	8,531,200株
所在地	本社 宮崎市本郷北方2485-20
従業員	社員 149名 パート・アルバイト 765名 (平成19年3月末現在)

事業内容

- ゲーム施設の運営を主軸に、カラオケ、ボウリング、バッティング、スーパー銭湯等の各施設と他社テナントを含めた**複合アミューズメント施設**の運営



事業の沿革

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 昭和53年 | ゲーム機械のレンタル業を開始 |
| 昭和63年 | 福岡市にゲーム・カラオケ店の直営1号店開設
以後、ゲーム店舗を増設 |
| 平成4年 | バッティングセンターを事業に加える |
| 平成6年 | ボウリングセンターを事業に加える |
| 平成10年 | スーパー銭湯を事業に加える |

あくまでゲーム事業が主力、他の事業部門はゲーム事業の集客目的として位置づけ



事業内容

H19年3月までの状況

■ 新設した店舗、部門

- H18年 4月 アーバンスクエア安佐エース店 (ゲーム、バッティング、その他) (栃木県佐野市)
- H18年 8月 ジョイブラザあさひ店 (ゲーム、その他) (三重県三重郡)
- H18年 9月 ジョイブラザ門司駅前店 (ゲーム、ボウリング、その他) (福岡県北九州市)
- H18年11月 アーバンスクエアアイオン神戸北SC店 (ゲーム、その他) (兵庫県神戸市)
- H18年11月 アーバンスクエアあらぼ-と柏の葉店 (ゲーム) (千葉県柏市)
- H18年12月 ジョイブラザ松阪店 (ゲーム、ボウリング、その他) (三重県松阪市)
- H19年 3月 ジョイブラザ龍ヶ崎店 (ゲーム、ボウリング、その他) (茨城県龍ヶ崎市)

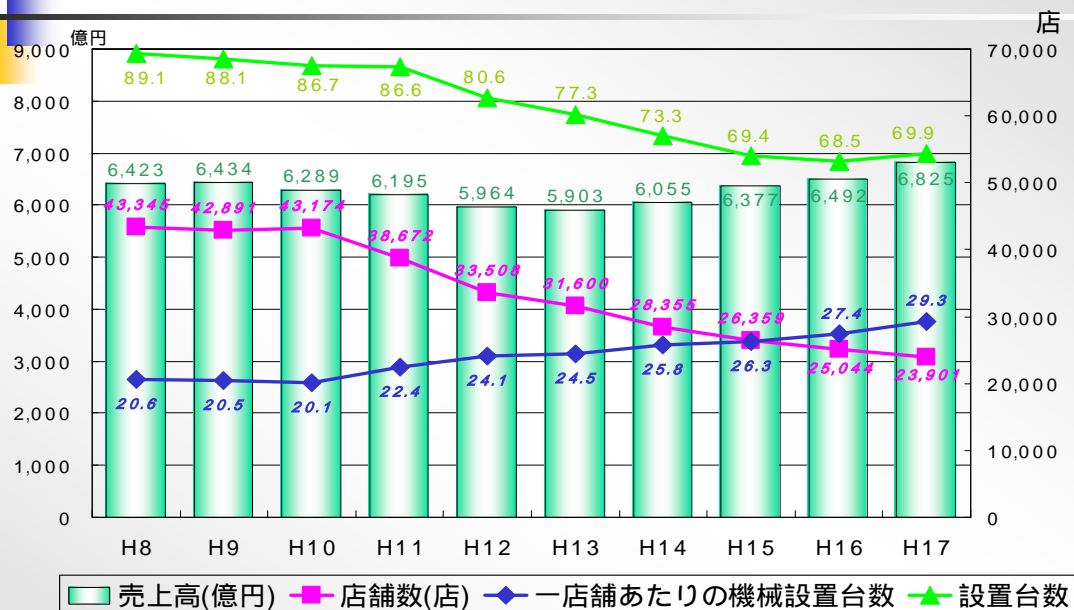
■ 閉鎖した店舗、部門

- H18年 7月 アーバンスクエア大川店 (ゲーム) (福岡県大川市)
- H18年 9月 ジョイブラザ宮崎店 (カラオケ部門) (宮崎県宮崎市)
- H18年 9月 アーバンスクエア駅南店 (ゲーム) (茨城県水戸市)
- H18年 9月 都城アーバンボウル (カラオケ、飲食部門) (宮崎県都城市)
- H18年10月 アーバンスクエア北バイパス店 (銭湯、飲食部門) (福岡県大川市)
- H18年10月 八代アーバンボウル店 (銭湯、飲食部門) (熊本県八代市)
- H18年11月 50号バイパス店 (ゲーム) (茨城県水戸市)
- H19年 2月 小林アーバンボウル店 (カラオケ、飲食部門) (宮崎県小林市)

■ リニューアルした店舗、部門

- H18年10月 ジョイブラザ宮崎店 (テナントのレストラン閉鎖し、ゲーム面積拡張) (宮崎県宮崎市)
- H18年10月 アーバンスクエア北バイパス店 (ゲーム面積拡張) (宮崎県宮崎市)
- H18年10月 八代アーバンボウル店 (ゲーム面積拡張) (熊本県八代市)
- H19年2月 小林アーバンボウル店 (ゲーム面積拡張) (宮崎県小林市)

年度別ゲーム市場の規模と店舗数



- 店舗数は平成8年度の4万3,345店から平成17年度には2万3,901店に大幅減少
 - 1店舗で100台を超える大型店舗が増加し、店舗の大型化傾向に拍車
 - スクラップアンドビルドが加速
 - 企業間格差がますます広がる傾向
- 淘汰が進み企業数、店舗数ともに減少予想**

業界順位（アミューズメント施設）

順位	会社名	売上高	決算月	市場占有率
1	(株)セガ	106,245	3月	15.6%
2	(株)ナムコ	52,961	3月	7.8%
3	(株)ラウンドワン	46,953	3月	6.9%
4	(株)タイトー	42,879	3月	6.3%
5	(株)イオン・ファンタジー	34,001	2月	5.0%
6	(株)ファンフィールド	18,341	2月	2.7%
7	(株)アドアーズ（旧シグマ）	16,030	3月	2.3%
8	(株)マイカルクリエイト	10,581	2月	1.6%
9	(株)ワイドレジャー	10,129	2月	1.5%
10	(株)ソユー	8,861	2月	1.3%
上位10社の合計		346,981		50.8%
12	(株)アリサカ	7,165	3月	1.0%

上位10社の内、5社はゲーム機器メーカー
3社は大手流通系の会社

(注)1. 上記売上高は、サービス業総合調査のアミューズメント施設のみの売上高であります。

2. 資料……………(平成18年11月15日付 日経MJ記載)。

3. 市場占有率…アミューズメント施設の市場売上高に対して算出してあります。

(市場規模：平成18年3月期682,500百万円・・・資料アミューズメント産業界の実態調査報告書)

出店戦略

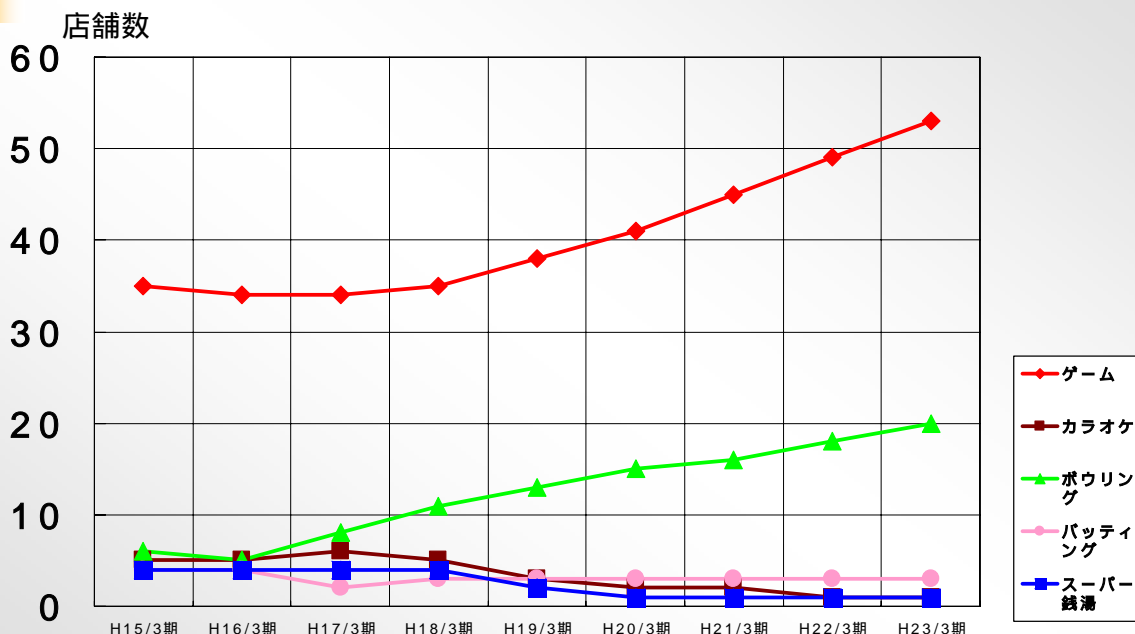
■ 出店方針

- 大型ゲーム単独店及びゲーム事業を主体にボウリング事業等の他事業との大型複合施設の開設を積極的に進める。
 - 年間5店舗前後の出店を計画
- 大都市圏への出店を推進
- 大型SCへの出店も積極的に検討する
- 新規大型店については、積極的に資産の流動化を検討する
- M&Aも積極的に検討し、業容拡大を図る
- 設備負担を抑えるため賃借方式による出店を基本とする
- スクラップ&ビルドにより事業の効率化を図る
 - 不効率店及び不効率部門の閉鎖を積極的に実施

■ 投資回収年月

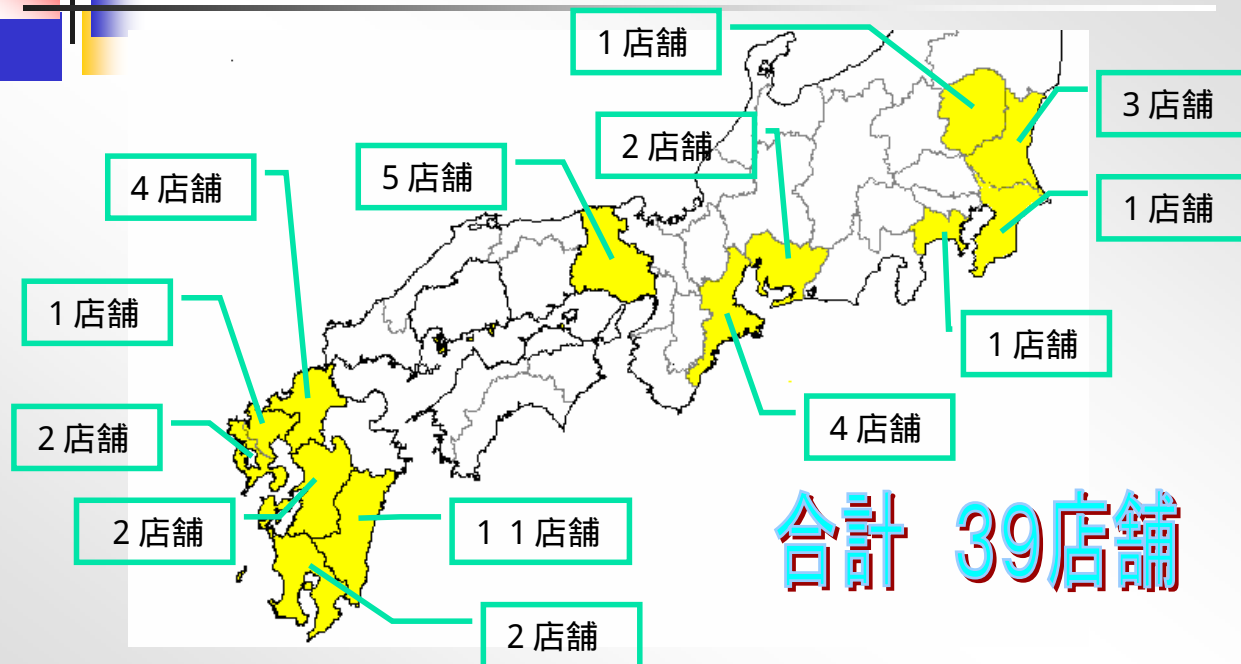
- ゲーム単独店・・・2～3年以内
- 複合店……………4～5年以内

事業別店舗数推移と見込み



- H16年3月期から不効率店の積極的なスクラップを行う。

店舗の状況 (平成19年3月現在)



九州地区 複合店 11店、単独店 11店
九州外地区 複合店 8店、単独店 9店

H20年3月期 業績予想

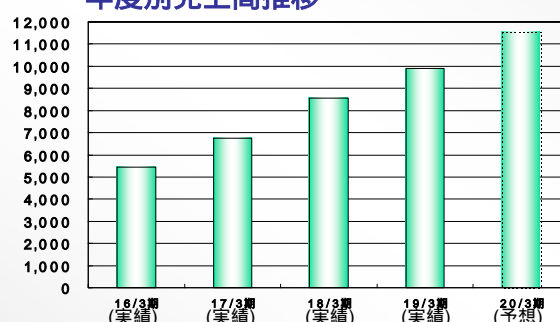
	H19/3期	H20/3期 予想	前期比増加率
売上高	9,914百万円	11,550百万円	16.5%
営業利益	694百万円	740百万円	6.6%
経常利益	440百万円	527百万円	19.8%
当期純利益	109百万円	176百万円	61.5%
発行済株式数(自己株含む)	8,531,200株	8,531,200株	0.0%
E P S	12.8円	20.6円	60.9%
R O E	4.2%	6.8%	61.9%
R O A	0.7%	1.1%	45.8%
自己資本比率	15.6%	15.3%	-2.2%
年間配当	15.00円	15.00円	-
配当性向	116.5%	72.5%	-37.8%

< 計画策定の前提条件 >

- 当期開設店の売上見込み + 1,178百万円
- 前年開設店の通年効果 + 1,828百万円
- 閉鎖店舗の売上減少 182百万円
- 既存店売上高の前期比計画 94.1%
(H19/3期実績102.0%)

年度別売上高推移

単位：百万円

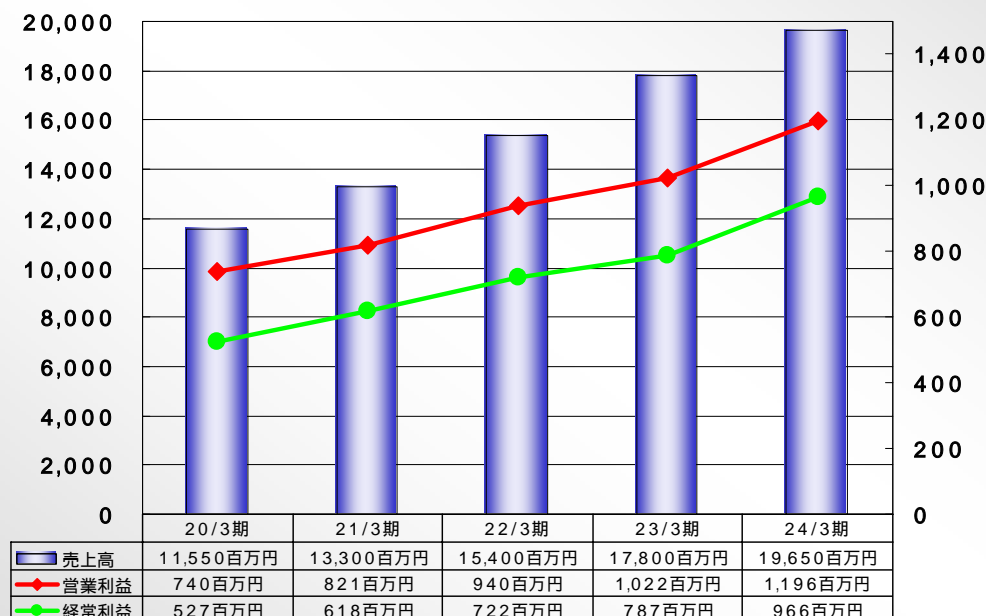


今後の業績予想

(売上高)

(単位：百万円)

(営業利益、経常利益)





積極的な利益還元

H14年10月	株式公開
H15年9月	5円の上場記念中間増配発表(年間1株当たり配当25円)
H16年1月	株主優待制度新設の発表
H16年5月	年間 1株当たり配当25円を決定
H16年5月	1：1.2の株式分割を実施(年間 1株当たり配当25円を据置)
H16年11月	1：1.2の株式分割を実施(年間 1株当たり配当25円を据置)
H17年2月	17年3月末の株主に対し、5月増配を発表
H18年2月	1：2の株式分割を発表
H18年5月	18年3月末の株主に対し、年間2円50銭の増配を発表



決算概要

貸借対照表

(単位：千円、%)

	前期末 H18/3月期	当期末 H19/3月期	増減額	前期比		前期末 H18/3月期	当期末 H19/3月期	増減額	前期比
資産の部					負債の部				
流動資産	1,973,467	2,115,410	141,943	107.2	流動負債	3,772,176	4,606,298	834,122	122.1
固定資産	12,015,625	14,504,666	2,489,041	120.7	固定負債	7,599,537	9,434,977	1,835,440	124.2
有形固定資産	10,703,007	12,544,273	1,841,266	117.2	負債合計	11,371,713	14,041,276	2,669,563	123.5
無形固定資産	113,416	57,824	-55,592	51.0	資本の部				
投資その他の資産	1,199,202	1,902,568	703,366	158.7	株主資本	2,579,149	2,571,162	-7,987	99.7
繰延資産	3,127	10,070	6,943	322.0	評価・換算差額等	41,357	17,709	-23,648	42.8
					新株予約権	0	0	0	0.0
					純資産合計	2,620,506	2,588,871	-31,635	98.8
資産合計	13,992,219	16,630,147	2,637,928	118.9	負債・純資産合計	13,992,219	16,630,147	2,637,928	118.9
					1株当たり純資産額(円)	616.19	304.41	-311.78	49.4

現金預金の増加 127百万円 棚卸資産の増加 133百万円
売掛金の減少 78百万円 未収入金の減少 54百万円

出店及び既存店のリニューアル
その他による設備の増加 4,196百万円
減価償却費及び除売却等の減少 2,355百万円

店舗閉鎖に伴う営業権の除却 24百万円
営業権の償却額 31百万円

差入保証金・敷金の新規増加 863百万円
保証金、敷金等の返却 111百万円

短期借入金の増加 400百万円
1年以内の長期借入金の増加 259百万円
支払手形の増加 220百万円
1年以内償還予定の社債の増加 100百万円
未払費用の増加 38百万円
1年以内の割賦債務の減少 194百万円

長期借入金の増加 1,608百万円
無担保社債の増加 340百万円
割賦債務の減少 118百万円

有価証券評価差額金の減少 23百万円

損益計算書

(単位：千円、%)

	前 期 末 H 1 8 / 3 期	当 期 末 H 1 9 / 3 期	前期比 (%)	H 1 9 / 3 期 計	H 1 9 / 3 期 画 計 画	H 2 0 / 3 期 比 通 期 予 想
売上高	8,548,220	9,914,882	116.0	9,850,000	100.7	11,550,000
売上原価	7,430,958	8,634,732	116.2	8,477,250	101.9	10,086,200
売上総利益	1,117,262	1,280,150	114.6	1,372,750	93.3	1,463,800
販売費及び 一般管理費	546,944	586,011	107.1	642,750	91.2	723,800
営業利益	570,318	694,139	121.7	730,000	95.1	740,000
営業外収益	234,395	176,892	75.5	154,000	114.9	217,000
営業外費用	380,296	430,584	113.2	396,010	108.7	414,800
経常利益	424,417	440,447	103.8	487,990	90.3	542,200
当期純利益	170,367	109,504	64.3	135,050	81.1	182,300

売上高の内訳
店舗売上高 9,175百万円(前期比19.0%増)
機器売上高 199百万円(前期比48.2%減)

売上原価の内訳
仕入原価 367百万円
店舗原価 9,474百万円
機器仕入・除売却原価 73百万円

販売費及び一般管理費の内訳
保険料、支払手数料の増加 17百万円
発送費、地代家賃、租税公課の増加 18百万円
人件費の増加 16百万円
雑費、接待交際費、報酬等の減少 14百万円

営業外収益の内訳
受取手数料の増加 17百万円
受取地代家賃の増加 14百万円
雑収入の減少 90百万円
(営業保証金、保険金、店舗閉鎖違約金他)

営業外費用の内訳
支払利息の増加 57百万円
受取地代家賃に対応する原価の増加 5百万円
その他営業外費用の減少 8百万円
繰延資産償却の減少 4百万円

特別損失の内容
不効率店舗の閉鎖(除売却損) 149百万円
店舗閉鎖費用 24百万円
その他特別損失 23百万円

キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	前期 H18年3月末現在	当期 H19年3月末現在
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,869	2,674
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,448	4,864
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,772	2,310
現金及び現金同等物の増加額	193	119
現金及び現金同等物の期首残高	602	847
現金及び現金同等物の期末残高	847	967

非 資 金 費 用	税引前純利益	244百万円	売上債権	83百万円
	減価償却費	2,184百万円	法人税等の支払額	119百万円
	店舗閉鎖等費用及び有形固定資産除却損	172百万円	有価証券・固定資産の売却による収入	106百万円

新規出店・既存店舗のリニューアル・機器購入に伴う有形固定資産の取得による資金使用	4,076百万円
敷金・差入保証金等の支出等による資金の使用	863百万円
敷金・差入保証金等の回収による収入の増加	87百万円

設備資金としての長期借入金の純増減額	1,868百万円
短期借入金の増加	400百万円
社債の純増額	429百万円
設備等の割賦債務の支払の減少	270百万円
配当金の支払額の増加	116百万円

事業別売上高予実比較

平成19年3月期 売上高比較

(単位:百万円、%)

事業別	前期 実績	当期 実績	前期比	計画	計画比	既存店 計画	既存店 実績	既存店 計画比
ゲーム事業	7,165	8,623	120.3	8,640	99.8	2,109	2,419	114.7
ホウリング事業	617	775	125.7	724	107.0	398	432	108.6
スパ・銭湯事業	224	153	68.4	152	100.6	109	111	101.4
カラオケ事業	66	49	74.5	45	108.8	24	26	109.7
パティンゴ事業	25	44	173.3	46	95.6	0	0	0.0
その他の事業	448	267	59.7	239	111.7	32	30	92.4
合計	8,548	9,914	116.0	9,850	100.6	2,674	3,020	112.9

その他の事業には、機器売上を含んでおります。

平成19年3月期 既存店月次売上高の前年比較

(単位:%)

事業別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
ゲーム事業	93.0	114.4	110.2	102.5	98.9	94.4	101.4	101.4	100.7	103.8	102.4	97.1	103.7
ホウリング事業	88.8	91.6	100.0	97.8	92.3	105.9	97.6	112.2	102.4	96.0	93.3	97.0	98.3
スパ・銭湯事業	92.9	90.8	86.4	87.4	86.2	81.9	94.4	101.7	97.0	91.8	92.5	94.7	92.6
カラオケ事業	91.7	85.0	86.8	86.7	96.5	98.6	103.7	80.5	90.4	86.4	79.9	105.4	93.5
パティンゴ事業	95.2	91.3	95.4	82.9	91.0	117.3	81.8	83.8	93.6	101.3	96.9	0.0	0.0
その他の事業	58.9	110.9	80.6	71.2	9.0	77.8	68.5	75.2	76.5	83.0	81.6	75.9	77.8
合計	92.0	110.6	108.1	101.0	91.0	94.9	100.5	101.8	100.5	102.5	101.3	96.9	102.0

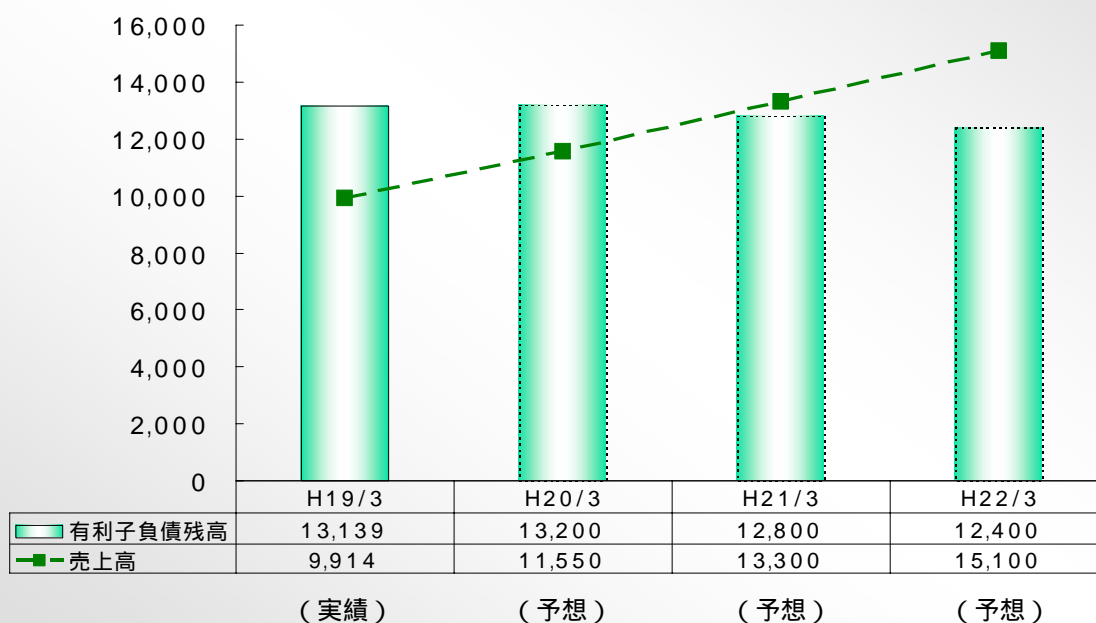
H19年4月 月次売上状況

	前年同月比								
	4月	5月	6月	第1四半期	7月	8月	9月	第2四半期	上半期
既存店舗	102.8%								
全店舗	133.3%								
店舗数	40店舗								

	前年同月比								
	4月	5月	6月	第1四半期	7月	8月	9月	第2四半期	上半期
ゲーム事業	103.0%								
ホリング事業	103.7%								
銭湯事業	102.5%								
加竹事業	90.9%								
パティン事業	80.7%								
その他の事業	89.0%								

有利子負債の推移見込み

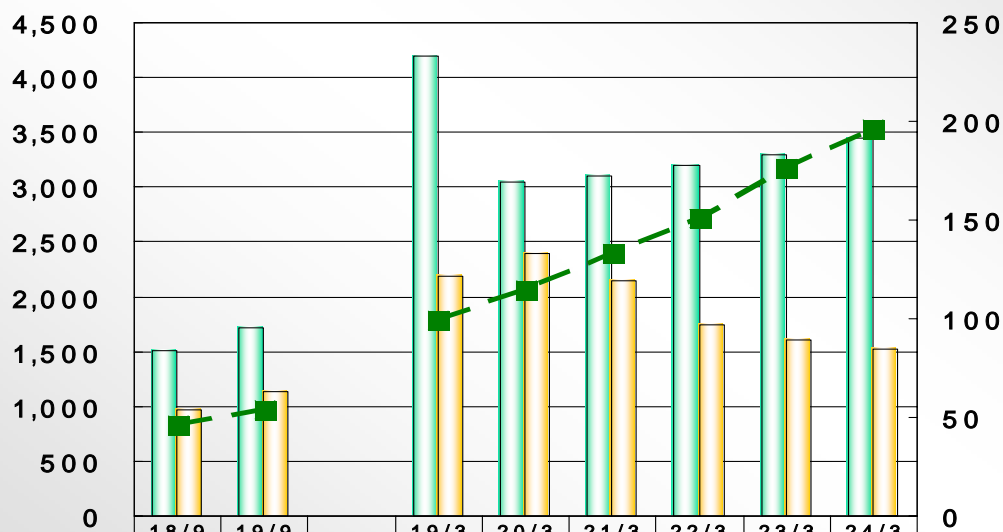
単位：百万円



設備投資、減価償却費の推移

(単位：百万円)

売上高 (単位：億円)



設備投資額	1,504	1,720	4,196	3,050	3,100	3,200	3,300	3,450
減価償却額	973	1,140	2,184	2,400	2,150	1,750	1,600	1,520
売上高	46	54	99	115	133	151	176	196